

地域発診療所だより②

「情報共有に基づいた医療をサポートするあなたの専門医」 ～うおのめ削りから在宅緩和ケアまで～

今回の執筆者：桜井 隆

さくらいクリニック

〒661-0043 尼崎市武庫元町2丁目12-1

当クリニックは阪神間の医療機関過密地域、尼崎市北西部の住宅地にある都市型テナントクリニック。内科専門医、整形外科専門医、リウマチ認定医などを修得後、内科、整形両サイドから患者さんの健康関連問題にアプローチ“あなたの専門医”としての家庭医をめざして開業して10年になります¹⁾。腰が痛いし血圧も高いたつじいさんや、糖尿があって膝OAもあるうめばあさんにとりえず対応、必要なら診療圏の関西労災病院等に紹介、あつかましく回診、カンファレンスにも参加して診-病連携を行っています。もちろん整形、内科両方に精通するなんて不可能なこと、知識を得たり相談するのにそれぞれの専門領域のMLやTFCなどには大変お世話になっております。関節リウマチに関しては上乘せの専門領域、リウマチ医として現約150名程のリウマチ患者さんの支援を行っています。年2会開催する患者親睦会“リウマチ負けるもん会”での患者さんとのディスカッションでは診察室では聞けない本音を聞かせてもらってます。医療サイドの視点からの脱却をめざし、利用者である患者の視点、他の業界の視点はどうか、ということ常座標軸とし自らの位置を模索しています。

診療の基本は情報共有。薬の説明、私のカルテという交換ノートを用いたわかりやすい情報提供、診療報酬のメニューの提示、カルテ、レセプトへのアクセス権の保障など医療情報をすべて共有することによって患者さんの自己決定を支援しています。日常診療での情報共有に基づいた自己決定の支援、たとえばカゼの薬を飲むのか、定期的な検査をするのかといった問題を一緒に考えていく、その延長上に大きな健康



筆者

トラブル、癌治療や延命治療、そして最期をどこでどのように生きるかといった問題の自己決定の支援があると考えています。

もう一つの柱が在宅ケア。病気や障害があっても住み慣れた家で暮らし有終の美を飾る在宅ケアを当クリニックの訪問看護と共にサポート、年間約20名をお見送りしています²⁾。最近はそのうち癌末期が8割以上を占め、期間限定の癌末期が在宅ケアに向いているとはいえ癌以外の疾患での在宅死、老衰による大往生が介護保険開始後施設シフトによって減っていることが気になります³⁾。在宅緩和ケアの基本はきっちりした症状、疼痛緩和ですが、本人、家族のQOLをいかに損なわないかがポイント。そしてサービス提供サイドの医者のQOL維持も大切。

「たつじいさんに残された時間はあと数日、週末がヤマと思いますが…あの…土曜は宴会、日曜はゴルフですて…」と真実？を家族に伝えます。この“BAD？NEWS TELLING”ができる距離の取り方が大切。ハーフが終わって昼休みにちょっと電話してみると、「まあ同じですわ、がんばってじいさんの年、88で回ったでと報告に来て下さいよ。」と息子さん。帰り道に往診し



NHK TV 発信基地「カルテ開示」取材の風景

てみると、あれ、葬儀屋の車が、そしてすでにきちんとお線香までセットされていて、「たつじいさんの年、88をめぐしたんやけど、あと20年は生きててもらいたかった…」

どんな場面でも上質のウィット（ある時はべたなギャグ）をちりばめた会話を潤滑油に患者—医者間の本音の信頼関係をめざしています。地域に開かれたクリニックとしてマスコミ取材、原稿、講演依頼などなんでもお受けしております。もちろん学生、研修医の見学也大歓迎。こういった交流自体がクリニックと私自身の活性化になると考えております。

文 献

- 1) 桜井 隆：PCにおける整形外科的プロブレム。JIM 2002; 12(5): 407-10.
- 2) 桜井 隆：がん末期患者を在宅で支えるターミナルケア。三輪書店 2001; 11: 279-84.
- 3) 桜井 隆：介護保険は自立を支援できるのか？～施設シフトする要介護高齢者～ 内科 2002; 90(3): 558-62.
- 4) 「先生…すまんけどなあ…」 たつじいさんの在宅ケア顛末記、御希望の方はホームページからメールを送ってください。

連絡先：桜井 隆

〒661-0043 尼崎市武庫元町2丁目12-1

フェルティ武庫元町

さくらクリニック

TEL: 06-6431-5555 FAX: 06-6431-0666

ホームページ <http://www.reference.co.jp/sakurai/>